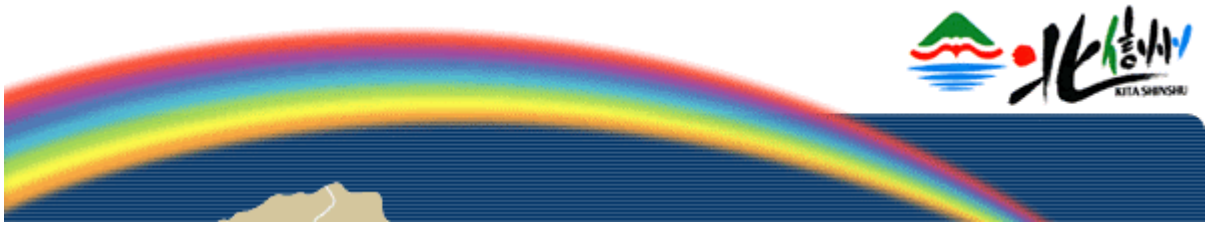

広域的観光推進・幹線道路網整備調査研究書

平成１６年１月

北　信　広　域　連　合

序　文

近年、社会情勢が急激に変化を遂げ、これに伴い私たち北信広域圏を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。長野オリンピックを契機とした、上信越自動車道の開通、関連道路の整備、北陸新幹線長野駅開業、長野以北の開業に向けた工事の進展など高速交通体系の整備が進んでいます。

一方、国民の観光消費動向も質的な変化が顕著となり、当圏域内を訪れる観光客数は減少傾向が続いており、抜本的な対応が急務であります。

このような状況の中で、従来個々の市町村ごとに進めてきている観光及び幹線道路網整備について、北信広域圏域を一体としてとらえ整備を図るなかから、地域の振興を推進していくべきであるとの認識のもと、平成１４年度から２カ年にわたり広域的観光推進及び幹線道路網整備について調査研究を重ね、その結果をこの研究書に取りまとめました。

今後、北信広域連合構成市町村においては、本書を基本方針とし、観光施策及び道路網整備の推進を図っていくものとします。

この調査研究の過程にあって貴重なご意見、ご提言をいただきました県現地機関関係者をはじめ、関係各位に感謝申し上げますとともに、今後の事業推進に対しましてもご理解とご協力をお願いいたします。

平成１６年１月

北信広域連合長　綿貫隆夫

目　　次

Ⅰ　はじめに …… 1

1　北信広域圏内の現状と課題 …… 1

2　調査研究会の設置について …… 1

Ⅱ　調査研究結果 …… 1

1　広域的観光幹線網について …… 1

2　広域的幹線道路の整備について …… 2

3　情報発信事業 …… 2

4　圏域案内看板（統一看板）について …… 3

5　職員研修 …… 3

6　連絡会議等の設置について …… 3

Ⅲ　調査研究結果の活用 …… 4

（図１）観光幹線道路網図 …… 5

（表１）緊急に整備を要する路線 …… 6

（表２）中期的に整備を要する路線 …… 8

（表３）長期的に整備を要する路線 ……１０

（図２）緊急に整備を要する路線（箇所）図 ……１１

（図３）中期的に整備を要する路線（箇所）図 …… １２

（図４）長期的に整備を要する路線（箇所）図 …… １３

資　料

資料―1 …… 1

資料―2 …… 4

資料―3 …… 6

資料―4 …… 9

資料―5 …… １２

Ⅰ　はじめに

１、北信広域圏内の現状と課題

北信広域圏内を訪れる観光客は平成６年度の１，４００万人をピークに年々減少傾向にあり、平成１４年度には平成６年度の３分の２程度の９４５万人となり、スキー場利用者に限ると、平成１４年度の利用者数は平成３年度利用者数の２分の１以下の３２６万人と、観光産業を取り巻く状況は非常に厳しいものとなってきている。

また、上信越自動車道の開通、長野オリンピック関連道路整備、約１０年後と見込まれる北陸新幹線長野以北の開業など高速交通体系の整備が進んでおり、観光客の移動も広域化し、観光に対する需要も多様化してきている。

これらの状況下にある中で、市町村の枠を超えた広域観光ネットワークづくり、また、観光客だけでなく地域住民の利便性も考慮しながら、観光を含めた地域産業の活性化を実現していくための幹線道路網の整備・構築を図る必要が出てきている。

２、調査研究会の設置について

上記の状況を踏まえ、正副広域連合長会において調査研究の方向が出され、平成１４年度から２カ年にわたり、広域的観光推進のための施策及び広域的幹線道路として整備が必要な路線について、北信広域連合広域的観光推進・幹線道路網整備調査研究会（以下「研究会」という。）を組織し、研究会の中に広域的観光推進調査研究部会（以下「観光部会」という。）及び幹線道路網整備調査研究部会（以下「道路部会」という。）を設置し、それぞれにおいて調査・研究を重ねてきた。

Ⅱ　調査研究結果

１、広域的観光幹線網について

観光部会では北信広域圏域をひとつの観光地として捉えることを前提として、圏域外からの観光客の誘導及び観光施設間の移動に重点をおいて調査・研究を進め、次のような課題が出され検討を行なった。

（１）観光客の移動範囲が広域化している中で、市町村あるいは施設ごとに行なっている観光案内の見直しと、道路案内等の統一化
（２）案内看板のデザインの見直し（デザイン等の統一化）
（３）近隣市町村及び施設等の観光情報及び知識の共有化
（４）北陸新幹線駅からの観光客の誘導方策
（５）観光ルートの広域化、誘客活動の広域連携化

その結果、観光幹線道路として有効な路線をひろい出し、その路線を中心に観光客等を誘

導するのが効果的という結論になり、図１のとおり観光幹線道路としての位置付けを行なった（図中赤色で表示した路線)。次に、今後の道路整備を積極的に推進することによって観光幹線道路としていく路線を定めた（図中ピンク色の破線で表示した路線)。

また、当該観光幹線道路による誘導をよりスムーズに行なえるよう、北信圏域全体を案内する看板及び幹線道路から目的地までの誘導看板の設置について検討を継続していくことを確認した。(後段：４、圏域案内看板（統一看板）について)

今後、北信広域連合及び各市町村において観光客を誘導する際は、当該観光幹線道路及び観光補助路線を中心に案内・誘導することとする。

２、広域的幹線道路の整備について

道路部会において調査・研究を重ねた結果、２７路線（箇所）について広域幹線道路として整備・改修が必要という結論となり、緊急に整備を要する路線（概ね５年程度で整備することを目標とした路線)、中期的に整備を要する路線（１０年程度で整備することを目標とした路線)、長期的に整備を要する路線（１０年以上で整備することを目標とした路線）に区分した。

路線ごとの整備内容、事業効果等については表１～３、また整備箇所については図２～４のとおりである。

（１）緊急に整備を要する路線（表１、図２）
（２）中期的に整備を要する路線（表２、図３）
（３）長期的に整備を要する路線（表３、図４）

区分の「緊急」「中期的」「長期的」については、それぞれ優先度をあらわすものではなく、表及び図中の整理番号についても優先順位を表すものではない。

３、情報発信事業

観光客が観光情報を得る手段として、従来は観光パンフレット等によるものが主流であったが、昨今のインターネットの急速な普及により、インターネット（ホームページ）上からの情報取得が増えてきている。

各市町村及び観光協会等においてはそれぞれがホームページ上に観光情報等を掲載しているが、圏域内全体の情報を一度に閲覧・取得できるものがなかった。

観光部会では、圏域全体の観光情報を掲載・発信する広域観光用ホームページについて必要であるという認識で一致した。そこで、市町村の観光担当者を中心に観光ホームページ作業部会を設置し、検討・作成作業を進めた結果、広域観光ホームページ「らぐらぐ倶楽部」として平成１５年３月に公開することができた。

また、観光客へ情報提供をよりスムーズに行なうため、観光情報端末（キオスク端末）を各所に設置し、情報発信に努めることとした。

それぞれ、今後も各市町村の協力を得ながら拡充・実施していくものとする。

（１）広域観光ホームページ

広域観光ホームページ「らぐらぐ倶楽部」については、公開から約１年が経過したが、更新方法などを見直しながら、観光客に常に新しい情報を提供するよう、今後も観光ホームページ作業部会での作業を継続し、更新及び内容の充実を図るものとする。

（２）観光情報端末（キオスク端末）設置

平成１５年度において「道の駅ふるさと豊田」「道の駅信越さかえ」「信州中野観光センター」の３カ所に設置されたが、市町村及び道の駅など施設の協力を得ながら設置箇所を増やし、利便性を向上させる。

４、圏域案内看板（統一看板）について

観光部会では、北信圏域をひとつの観光地として捉えた場合、圏域全体を案内する看板についても検討課題としていく必要があるという方向性が出され、これを受けて各市町村の観光担当者による作業部会として「圏域案内サイン部会」をスタートさせた。

作業部会での検討結果は次のとおりである。

（１）北信広域圏内全体を案内する看板は必要である。
（２）デザイン等についても北信圏域のイメージを考えながら統一を図る必要がある。
（３）市町村における案内看板についてもデザイン等を統一していくのが望ましい。
（４）デザイン等について統一を図るためのマニュアルを作成する。
（５）出来るだけ早期に着手する。

上記の結果を踏まえ、圏域案内サイン部会については今後も作業部会として活動を行い、圏域案内看板の作製及び市町村における案内看板の統一を図るものとする。

５、職員研修

幹線道路整備を進め、統一看板等により北信圏域を一体的な観光地として案内していくには、市町村の観光担当職員はもとより、観光客と直接応対する観光案内所及び各施設の職員は、自分の市町村内の情報だけにとどまらず圏域全体についての情報を持つことが大切である。

また、観光客と応対するに際しての接遇などについても圏域内でのレベルの底上げ・統一を図る必要がある。

関係職員の観光情報に関する学習の機会を設け、また接遇研修会などを適宜実施するものとする。

６、連絡会議等の設置について

研究会及び各部会では、圏域内の全市町村の各担当課長等が集まり、活発な議論が交わされ、また、多くの情報交換も行なわれた。

これからの高速交通網の整備及び観光の広域化を考えると圏域内市町村の連携強化は必要不可欠と考えられる。

今後も連絡会議等の設置などにより、市町村間における情報交換及び連絡調整を図るのが望ましいと考える。

III　調査研究結果の活用

北信広域連合及び各市町村においては、本報告書にもとづき各路線の整備の推進・促進・実施及び観光振興に必要な施策を推進していくものとする。

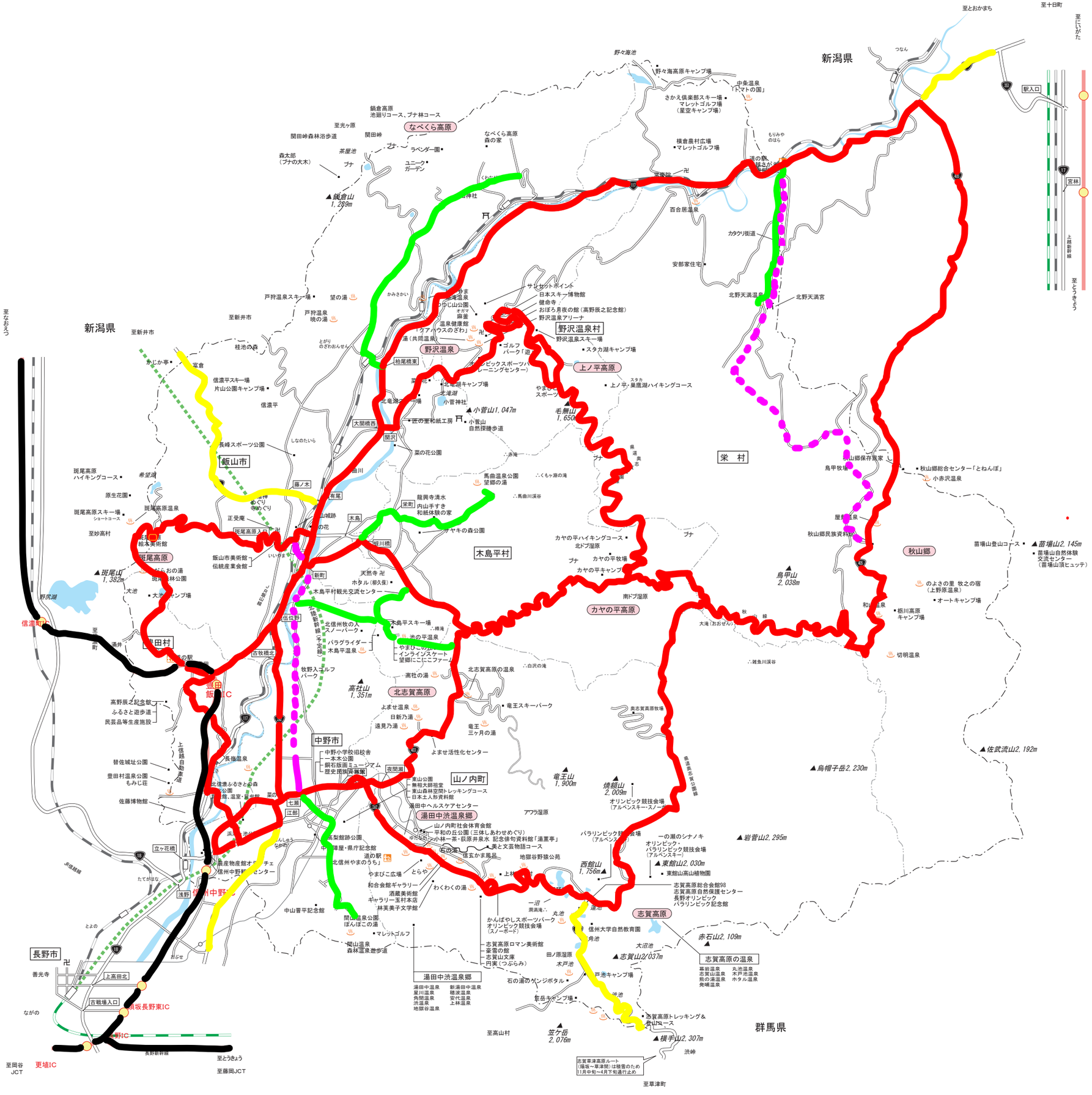
新潟県
至なおえつ
至上越JCT
至新井市
戸狩温泉スキー場
望の湯
戸狩温泉 暁の湯
桂池の森
かじか亭
富倉
信濃平スキー場
片山公園キャンプ場
信濃平
長峰スポーツ公園
飯山市
斑尾高原 ハイキングコース
希望湖
原生花園
斑尾高原スキー場 ショートコース
斑尾高原温泉
至妙高村
斑尾高原 絵本美術館
斑尾高原
▲斑尾山 1,382m
大池
大池キャンプ場
野尻湖
信濃町
至 町
斑尾高原入口
正受庵
めぐり 寺めぐり
飯山市美術館 伝統産業会館
飯山城跡
木島
有尾
藤ノ木
しなのたいら
柳原
雁田
七瀬
江部
古牧橋北
牧野入ゴルフパーク
斑尾高原 ふるさと林公園
斑尾高原 おたおの湯
上信越自動車道
斑尾IC
高野辰之記念館
ふるさと遊歩道
民芸品等生産施設
替佐城址公園
豊田村温泉公園 もみじ荘
佐藤博物館
豊田村
道の駅 北信濃
長楽温泉
北信濃ふるさとの森公園
温泉・宿泊施設
立ヶ花橋
JR信越線
信州中野IC
農産物直売所オーチェ
信州中野インター
たてがはな
浅野
中山晋平記念館
とよの
長野市
善光寺
上高田北
古戦場入口
ながの
長野IC
長野新幹線
至岡谷 JCT
更埴IC
至とうきょう
至藤岡JCT
至光ヶ原
関田峠森林浴歩道
関田峠
茶屋池
森太郎 （ブナの大木）
鍋倉高原 池巡りコース、ブナ林コース
なべくら高原
ラベンダー園
ユニーク ガーデン
なべくら高原 森の家
▲鍋倉山 1,289m
野々海池
野々海高原キャンプ場
さかえ倶楽部スキー場
マレットゴルフ場
（星空キャンプ場）
中条温泉「トマトの国」
横倉農村広場
マレットゴルフ場
もりみや のはら
道の駅 「しなの」
茶屋館
百合居温泉
カタクリ街道
安部家住宅
北野天満温泉
北野天満宮
つなん
至とおかまち
至十日町
至にいがた
駅入口
宮林
至長岡JCT
塩沢石打IC
塩沢IC
関越自動車道
上越新幹線
至とうきょう
至藤岡JCT
新潟県
サンセットポイント
日本スキー博物館
健命寺
おぼろ月夜の館（高野辰之記念館）
野沢温泉アリーナ
野沢温泉村
野沢温泉スキー場
スタカ湖キャンプ場
ゴルフパーク「遊」
オリンピックスポーツパーク（ランニングセンター）
上ノ平高原
上ノ平・巣鷹湖ハイキングコース
やまびこスポーツ
毛無山 1,650m
▲小菅山1,047m
小菅山 自然探勝歩道
小菅神社
北竜湖
北竜湖キャンプ場
北竜湖スキー場
北滝湖
蒸花
柏尾橋東
大関橋西
関沢
菜の花公園
雁田
有尾
木島
新町
栄町
龍興寺清水
内山手すき和紙体験の家
ヤマキの森公園
鯉川橋
天然寺
ホタル（郷久保）
木島平村
木島平村観光交流センター
木島平スキー場
北信州牧の入スノーパーク
パラグライダー
木島平温泉
池の平温泉
やまびこの湯
インラインスケート
望郷にこにこファーム
北志賀高原の温泉
高社の湯
▲高社山 1,351m
北志賀高原
よませ温泉
日新乃湯
遠見乃湯
竜王スキーパーク
竜王 三ケ月の湯
よませ活性化センター
中野市
中野小学校旧校舎
一本木公園
銅石版画ミュージアム
歴史民俗資料館
夜間瀬
山ノ内町
東山公園
無相大師祖堂
東山森林空間トレッキングコース
日本土人形資料館
湯田中ヘルスケアセンター
湯田中渋温泉郷
山ノ内町社会体育会館
平和の丘公園（三休しあわせめぐり）
小林一茶・荻原井泉水 記念俳句資料館「湯薫亭」
美と芸術物語コース
信玄かま風呂
地獄谷野猿公苑
道の駅 「北信州やまのうち」
やまびこ広場
とらや
和合会館ギャラリー
酒蔵美術館
ギャラリー芝村本店
林芙美子文学館
わくわくの湯
間山温泉公園 ぼんぼこの湯
マレットゴルフ
間山温泉 森林温泉遊歩道
湯田中渋温泉郷
湯田中温泉
星川温泉
角間温泉
渋温泉
地獄谷温泉
新湯田中温泉
穂波温泉
安代温泉
上林温泉
▲烏帽子岳2,230m
▲佐武流山2,192m
▲竜王山 1,900m
▲焼額山 2,009m
オリンピック競技会場 （アルペンスキー・スノーボード）
アワラ湿原
オリンピック競技会場 （アルペンスキー）
一の瀬のシナノキ
オリンピック・パラリンピック競技会場 （アルペンスキー）
▲東館山2,030m
東館山高山植物園
▲岩菅山2,295m
西館山 1,756m
志賀高原総合会館98
志賀高原自然保護センター
長野オリンピック パラリンピック記念館
志賀高原
信州大学自然教育園
赤石山2,109m
志賀高原の温泉
幕岩温泉
志賀山温泉
熊の湯温泉
発哺温泉
丸池温泉
木戸池温泉
ホタル温泉
▲志賀山2,037m
田ノ原湿原
木戸池
丸池
大沼池
一沼
裏高滝
高滝
角池
遊池
戸狩キャンプ場
石の湯のベンジボタル
笠岳キャンプ場
笠ケ岳 2,076m
至高山村
志賀高原トレッキング&登山コース
▲横手山2,307m
渋峠
志賀草津高原ルート （陽坂～草津間）は積雪のため 11月中旬～4月下旬通行止め
至草津町
群馬県
栄村
秋山郷保存民家
鳥甲牧場
秋山郷総合センター「とねんぼ」
小赤沢温泉
屋敷温泉
秋山郷民族資料館
秋山郷
苗場山登山コース
▲苗場山2,145m
苗場山自然休験交流センター （苗場山頂ヒュッテ）
▲鳥甲山 2,038m
のよさの里 牧之の宿 （上野原温泉）
オートキャンプ場
和山温泉
栃川高原キャンプ場
切明温泉
大滝（おおぜん）
秋山線
南ドブ湿原
カヤの平高原
カヤの平ハイイングコース
北ドブ湿原
カヤの平牧場
カヤの平キャンプ
ブナ
大滝
雑魚川渓谷
白沢の滝
馬曲温泉公園 望郷の湯
くもヶ滝の滝
馬曲川渓谷
県道奥志賀

表１：緊急に整備を要する路線

整理番号	路線名	場所	整備内容等	整備の必要性	事業効果等（道路）
1	（一）箕作飯山線	箕作～明石	未共用区間の開通 トンネル新設、道路改良	一般県道であるが、約２ｋｍにわたり人畜の通行も不能。栄村管内では国道１１７号線が主要道路であるが、事故等で交通遮断した場合、迂回する道路がない。国道１１７号線の迂回道路としても必要性大である。	国道１１７号線の有事の際迂回道路として効果がある。
2	（主）飯山野沢温泉線	前坂 赤滝神社南	凍結防止	緩い下り坂で、冬の間、日が当らず、日中でも目視できない状態で路面が凍結し、非常に危険であり、スリップ事故が多発。	冬季の交通事故防止。
3	国道403号	飯山市福寿町	中央橋の架け替え	千曲川の東西を結ぶ交通の動脈であるが、築47年が経過し老朽化が進み、また狭隘であるため大型車両のすれ違いに苦慮するとともに、朝・夕の交通混雑時や冬期間は交通渋滞を起こしており、架け替えの必要がある。	架け替えにより幅員を確保することにより交通渋滞の緩和と事故防止が図れる。また、近隣市町村との都市間交流を支えるとともに、新幹線飯山駅及び駐車場へのアクセス道路となる。
4	国道403号	木島平坂口	拡幅改良 Ｌ＝400m	一般国道４０３号は、飯山市・木島平村・山ノ内町を結ぶ幹線道路であるとともに、北信地域の観光地を結ぶ広域観光ルートでもある。しかし、一部が未整備で狭隘な個所もあるため、冬期の除雪にも支障をきたしている状況である。また、冬期には車のすれ違いが出来ず、毎年接触事故も多発している。	北信地域には国際的なスキー場も多く、当路線は観光地間を結ぶ重要な観光ルートとなっている。また、新幹線飯山駅から志賀高原を直結する唯一のアクセス道路であるため、交流人口の拡大が期待できる。
5	国道403号	裏落合 中須賀川 本郷集落内 横倉～前坂 表落合 赤坂峠 下須賀川	バイパス工事の推進 道路狭隘部分の改善 歩道設置	重要な幹線道路であり北志賀高原へ向かう大型車両の通行も多い。狭隘な部分はすれ違いが困難であったり、通学路であるが歩道の無い危険な箇所もあり、早急に改良又は歩道の設置が必要である。また、新幹線飯山駅へのアクセス道路としての役割がある。	北志賀高原、志賀高原及び新幹線飯山駅への円滑な車両の通行が図れ、特に冬期間の安全に効果がある。また、歩道の設置により通学の安全が図られる。
6	（主）飯山斑尾線	飯山市上倉	都市計画道路 (仮)斑尾線 計画幅員16m	市街地を東西に結び、広域圏域から新幹線飯山駅及び駐車場へアクセスする道路（新設）となる。	新幹線飯山駅を中心とする交通結節点の拠点となり、新幹線の利用増進が図れる。
7	（主）飯山野沢温泉線	飯山市新町	都市計画道路 綱切線 計画幅員16m	駅周辺整備事業における幹線道路として位置付ける。(一)中野飯山線と接続し、広域圏域から新幹線飯山駅及び駐車場へのアクセス道路となる。	駅周辺整備との一体的整備により、新幹線飯山駅を中心とする交通結節点の拠点となり、新幹線の利用増進が図れる。
8	（一）中野飯山線	中野市金井 赤岩、柳沢	バイパスの新設	新幹線により分断される現道の機能回復及び産業振興並びに新幹線飯山駅へのアクセスのため必要である。 通行者の安全確保のため必要である。	地域産業振興及び中野市東南部及び山ノ内町から新幹線飯山駅へのアクセスが容易になる。 交通渋滞の緩和及び交通事故防止 北信州スノーパーク及び飯山、野沢温泉方面への幹線ルートとして市内通過により観光面で期待ができる。

9	（一）豊田中野線	笠倉～壁田	橋梁建設、道路新設、拡幅改良	当地域の産業、経済の発展には千曲川を越える交通網が必要であり、この路線は市町村合併において最も重要な位置付けとなる道路である。沿線付近には県北信合同庁舎や北信保健衛生施設組合豊田衛生センターがあり改良整備は急務である。また広域的な観光推進に新たな展開として必要な路線である。	上信越自動車道の関係インターチェンジ（信州中野・豊田飯山・信濃町）との主要アクセス道路となる。 山ノ内町、中野市、豊田村、三水村、信濃町相互間の交流時間の短縮が図れる。 野尻湖志賀高原間のルートであり、広域的観光道路として産業・経済・文化の振興が図れる。
１０	国道117号	替佐～静間	バイパスの建設	飯山方面から長野方面に向かう多くの車両は現在開通している豊田飯山インターまでの国道117号バイパスから村道を経由し再び国道を利用するという流れを形成している。途中を経由する村道では幅員が狭く、急勾配のため事故が多発している。また道に迷う観光客も多い。	豊田飯山インター及び新幹線飯山駅への広域的なアクセス道路として活用できる。飯山市方面から長野市方面への交通の利便性が飛躍的に高まる。長野県と新潟県の主要幹線道路が確立する。
１１	（一）壁田松崎線	中野市竹原	拡幅改良	狭隘箇所を除いて、上部・下部は整備済であり、中間部のみ未改良となっており、通行の安全性のため必要である。 通学路となっていることから、歩行者の安全確保のため必要である。	中野市東南部及び山ノ内町から新幹線飯山駅へのアクセスが容易になる。 交通事故防止 野尻湖志賀高原間のルートであり、広域的観光道路として産業・経済・文化の振興が図れる。
１２	（一）中野小布施線	中野～小布施	改良	地域の幹線道路であり、また生活道路として利用しており、狭隘箇所の拡幅は困難なため、バイパスルートの整備が必要である。	中野市南部地域から新幹線飯山駅へのアクセスが容易になる。 小布施町、中野市、山ノ内町、豊田村相互間の交流時間の短縮が図れる。 中野～小布施間への流れにより中山晋平記念館･日本土人形資料館への誘客に期待できる。
１３	（一）三水中野線	上今井橋～安源寺	拡幅改良、道路嵩上げ、上今井橋の延長	中野市、豊田村間の幹線道路であり、また生活道路として利用しており、狭隘部分の改良が必要である。 市町村合併の幹線道路として整備が必要である。 千曲川の増水時には、当該箇所は冠水し通行不能となるため、改良が急がれる。 音楽を通じた広域観光ルートとして交流を図るため必要。	山ノ内町、中野市、豊田村、三水村方面相互間の連絡性が良くなる。 ＪＲ飯山線上今井駅は各方面からの利用客が多く今後も通勤、観光面でも重要な役割を果たす。 広域的観光道路として、産業・経済・文化の振興が図れる。また、中山晋平と高野辰之の音楽を通じての観光面からの期待が大きい。